

（表紙）

「明治九年

二番

諸事日記帳

子 從六月十八日

至十二月三十一日

青木久衛

↓ 史料無し

六月十八日、天気吉、午時頃より曇り居候、昨日笠松、柳津、田代、長池、徳田辺迄八ヶ村申合、多度山之黒幣ヲ請参候由ニ付曇り候

六月廿一日、天気吉、今朝上サバより国太郎玄蕃横手堤敷之儀ニ付頼ニ参候、勘七も米之一条ニ付参候、夫より拙者坂牧へ行、雨乞いニ多度山え黒幣ヲ請ニ行、相談ニ行、山岩高桑へ行、山円・小逸ハ上・中へ行相談致し参候処、一両所とも日延之由ニ申参候間、今日昼後より大分曇り候間、明日行事ハ先見合セ申し候、柳津も十ヶ村組合にて黒幣ヲ請居候間、聞合セニ曾平行候、今日拙者山彦方にてうんどんにて被呼、直ニ帰り参候

七月廿七日、天気吉、

此頃は余り旱魃ニ付、昨夜村方相談仕候て、多度山之黒幣ヲ請ニ行候筈ニ付、今朝山田省三郎、小川逸平、勘之助方悴老人ト参人連にて行候、誠ニ旱魃にて田方迷惑致候

七月廿九日

今朝早ク多度山黒幣受参候間、拙者曾平と一緒に御迎ニ罷出候、村中一同御迎ニ罷出候、夫より八幡社ニ勧請申、今日は村中休日仕候て、昼夜ヲ不分こもり居り候、朝は天気曇り居候得共、四ツ時分より晴、又晩方ニ曇り候

七月三十日、天気吉、  
今日は一かいたうより式人ツゝ宮え詰候筈ニ付、拙者も昼前ニ行、今夕  
とぎ番山組、よい之内ハ村中行詰居候

七月三十一日、天気吉、今日ハ北屋敷当番ニ付、拙者ヨリ昼迄居候、  
久之丞替りニ参候間拙者帰候、日々御神酒献候  
今晚北屋敷当番ニて、上佐波獅子ヲ舞セ候由ニ付、誠ニ大輝  
相成心配仕候処、上・中より宮ニて之事ハ差支障り申参候間断  
申し候、拙者も行居候て、今晚は通夜致候、角力、浄留利、  
手踊り色々致候て通夜致居候、始は大勢なれ共、後ニは  
北屋敷斗、夫も拾式三軒も参り居不申候

八月一日、天気吉、今日は職人壱人無之候、今日は川原番ニ付、  
川原組当番故罷出、八幡様え詰居候処、今日八ツ時分ニ俄ニ曇  
雨少々降候、ばらばらニのみ也  
今日は拙者神棚え御神酒備、日々多度山え神え供候

八月二日、天気吉、今日は拙者早朝ニ八幡宮多度山両社え、神酒  
ヲ奉捧、  
今晚雨乞当番は坂牧也、今晚十二時頃少々雨降候様子

八月四日、天気吉、節々曇り少々ツゝ雨降候得共、誠ニ御利  
正雨ニて少々降のみ也、今夕方ニ多度山え御祓ヲ返却ニ行、  
広江鏡平、山田省三郎、小川林内三人ニて送り行候、今晚  
夕飯後五ツ半時分ニ八幡宮ヲ出立、石川迄明松ニて村中  
一同送り行候

八月六日、天気吉、

今日又多度山にて白幣ヲ請参り候、黒幣返し白幣ヲ  
鏡平・省三郎・林内三人行、帰りニ請参候

八月七日、天気吉、

今日昼後八ツ時分ニ俄ニ天雨降来り、  
大分大降にて一度ニ押出し、極大降にて暫ク之間ふり候、  
皆々喜宮え参詣致候なれ共、田方ひび割れ目ニ少々水  
付候、誠ニ旱魃致居候間中々水付不申候、明日休日致  
候とて触参候

↓ 史料無し

八月九日、天気吉、

・・・・、拙者山省方え頼ニ行候処、多度山ヲ送り行候間留主  
ニ付明日と申引取候」

八月廿日、天気吉、

昨日夕ヨリ三ヶ村相談之上雨乞ヲ八幡社え祈祷致候、挑灯  
式ツ上り居候、今夕拙者参詣致候、帰りニ貞八方にて西瓜ヲ

八月廿一日、天気吉、今日ハ大工円六表小間ヲ大略出来致候、日暮

頃より雷鳴致し掛、晩方夕飯時分ヨリ俄ニ大雨降来り、雷も  
鳴り誠ニ潤雨にて、・・・・

極善雨也、村々雨乞にて大喜にて参詣候様子、拙者共も  
八幡社え参宮候處、村方之者モ皆参候」

八月廿二日、天気吉、昨夜之大雨にて今日は村方休日仕候て、

雨乞之御礼ヲ致候、外村々も皆々休日候様子

※ 翻刻にあたっては、助詞に用いられている「者」「而」「江」「而已」をはじめ、変体  
仮名及び合略仮名（「方」）は平仮名書きとした。また旧字体は新字体に改めた。